

第14回長野市公共施設適正化検討委員会 議事録	
開催日時	平成28年6月30日(木) 15:00~16:30
場 所	長野市役所第一庁舎7階 第二委員会室
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、中屋委員 [事務局(行政管理課)] 小川総務部長、丸山行政管理課長、 村上行政管理課長補佐兼公共施設マネジメント推進室長、 大塚行政管理課長補佐、渡辺行政管理課係長、竹内行政管理課主事 [事務局支援] 一般財団法人長野経済研究所：折井研究員
議 事	(1) 公共施設マネジメント推進について ア 芋井地区の市民ワークショップについて イ 啓発リーフレットについて ウ 再配置計画の検討について (2) その他

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) 公共施設マネジメント推進について
 - ア 芋井地区の市民ワークショップについて
 - イ 啓発リーフレットについて
 - ウ 再配置計画の検討について
- (2) その他

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) 公共施設マネジメント推進について

〔資料により、公共施設マネジメント推進について、事務局より説明〕

委員長 ワークショップをやってみて、なにか急がされているような感じを受けた。ゆっくり考える時間が少なかったように思う。たとえば委員会とは別にもう少し小規模な専門部会のようなものがあればよいのではないか。委員会よりもフットワークが軽く、気軽に地域の課題を議論する場が必要かもしれない。第3回のワークショップのスピードだと、議論が深まらず表面的になってしまう。せっかくやるのにもったいない。

委 員 今後市の方針として、公共施設を一箇所にまとめるとか、分散させるとなったとき

に、いわゆるインフラが一番問題になってくる。このインフラの部分も含めて、今後の施設のあり方を考えてもらうのもよかったのではないかな。

他のやり方として、ワークショップの参加者に対して、アンケート形式の設問を作って回答してもらい、その中で出てくる意見・反応を見ても一つの手法かもしれない。

委員 ワークショップをやって、まずは住民の皆さんの意見を吸い上げるのが第一。その次として、こちらから A 案・B 案というようにモデルを示す段階に入っていくのか。会議をやる時には、原案がないと何にも決まらない。原案に対して、ああするこうするといったことであれば決まりやすいが、今回のワークショップの形で話をまとめるのは難しいのかなと感じる。

委員長 今回のワークショップは、計画策定前の段階として行っているものなので、その原案を作成するために、ざっくばらんな意見を頂戴して、仕分けをしていく。若い人からこんな意見があったとか、こんな風に考えている人がいるということ共有するのが本ワークショップの目的のように思う。

委員 このワークショップは非常にいい取組みだと思うので、様々なケースを想定して、もう何箇所かでこの取組みを行えばいいと思う。他地区の公共施設に対する盛り上がりや時間的な部分も含めていろんな課題があるとは思いますが、一箇所ですら終わり、ということではなく、ここまでやってきたものを活かして他の地区でもできればいい。

事務局 やり方については、時間が少なかった点も含めて、改良していかなければいけないが、参加者の多くはこのワークショップをやってよかったと提供している。今までは最初から行政が原案を作成し、住民説明会という形で一方的に説明をして、賛成・反対ということでやってきた。今回の場合は、最初に「将来の芋井地区をどうしたいのか」という大きなテーマからスタートした。その中で、住民の皆さんの「こうしていきたい」「地区を活性化したい」という強い思いが伝わってきた。

委員 地域の方々からすれば、ワークショップの形を取ることで、行政が行っていく方向性もわかるし、自分たちの意見が言える場を設けてくれて、行政も私たちの意見を聞いてくれた、ということになる。自分たちが地区のことを真剣に考えれば、行政も話し合いの場を設けてくれるというインプットにもなると思う。

事務局 われわれとしてもそこを目指しているし、「この施設をどうするか」ということではなく、「地区全体の活性化」について若い人などから幅広い意見交換を行った。そういった若い人たちの意見というのは、各支所にいる「地域きらめき隊」に引き継いで、継続的にやっていってもらおうと考えている。

委員 このワークショップの様子については、新聞でも取り上げられたこともあって、自分が住んでいる地区の会議でも話題にのぼったことがある。興味を示している住民が多く、ワークショップのようなきっかけを作ってもらうことで、普段心の中で思っている地区に対する愛着とか自分なりの地区の将来像というのを、同じテーブルに乗けて、意見が出せる。公共施設は市民の税金で作るものであって、市民のものなんだという意識改革が、こういう場を作ることによって共有できる。行政と市民が主従関係ではなく、行政＝市民という、行政も含めて地区の課題を共有できるのが大事。同

じ課題・話題の共有ができて、同じベクトルでみんなが将来を見ることができると、ワークショップの一番の成果だと思う。

委員 これを機会に他の地区に立候補してもらおうというのはいかがか。

事務局 やっていきたくて考えている。

委員 今回のワークショップは縦割りの集まってもらって話し合ったわけだが、そこにプラスして、たとえば保育園のお父さんお母さんに集まってもらって、保育園の今後のあり方を考えてもらうとか、りんご農家なり若者に集まってもらって、一番興味を持っている分野について話し合ってもらおう。いわば横のつながりで話し合ってもらおう。そうすると、縦の線と横の線でいいアイデアが出てくるのではないか。

委員 市民の意見を吸い上げる土壌を行政がきちんと作ったということは、行政としては説明材料を増やすことになる。出席者からも、ワークショップをやってよかったという意見を多数いただいている。自分たちの意見が言えて、その意見が100%受け入れられなくても、発言する機会があったというだけでも、参加者にとっての満足感・充実感はあるのではないか。行政と市民の距離感はすごく縮まる。

委員 やるとかやらないの問題ではない。行政というのは最大公約数で動かなければいけない。その「市民の声を聞く」ということをもっとやっていただきたい。

事務局 今年度中に公共施設等総合管理計画を作成しなければいけない。今回の芋井地区のモデルケースを主にして、今まで検討してきたものの成果などを載せていく。その計画策定後には、こういった取組みは引き続きいろんなところでやっていかなければいけないと思っている。いろんな市民参加の方法があるので、地域の皆さんと相談しながら、継続して取り組んでいきたいと思っている。

委員 ワークショップだけではなくて、いろんなやり方で各部局でも市民の意見を吸い上げていると思うが、そういった中で総合計画作りに反映させていただきましたという部分をきちんと発信できれば、市民の理解力は高まると思う。

委員長 20代や30代の若者がやる気のある意見を言ったことで、周りから目を付けられて引っ込んでしまうということがないようにしないといけない。そういう若者の意見を引っ張っていけるように、可能な範囲でサポートしていければよい。若い人が引いてしまうと、つまらないものになってしまう。

委員 一番の弊害は、担当課で予算付けや管理を行っていて、例えば学校に公民館を併設したいと思っても、担当課が違えば、問題となってくるのではないか。

事務局 そこについては、今までのように縦割りではなく、庁内横断的にやっていくという話になっている。

委員 もっと先の話をするれば、今まで複数の課が担当していた施設が一つの建物にまとまったら、その建物を担当する一つの課を作ってもいいのではないか。中山間地の場合は特に。今までの縦割り行政を解消しないと、またどこかで問題が起きてくる。

委員 この芋井地区のワークショップのやり方を、早く形にして、それを発信して、他の地区でこの話が盛り上がるようにした方がいい。うちの地区でもやってくれとか。そうすれば地区ごとに自分たちで考えるようになるので、そのきっかけ作りとしてなにか仕掛けを考えてもらいたい。

委員 この委員会も今日で 14 回目を迎えるが、当初 1 回目か 2 回目の中でも、行政は庁内横断的に取り組めるのかという委員の質問が出たときに、横断的に取り組むよう努めなければ、公共施設の適正化は全うできないとの回答をしている。そういった意味もあって、一方の主役は行政であると思う。

委員 スクラップアンドビルドで考えていただいて、まだ使えるものであっても、保持できないと判断したら、壊す勇気も持ってほしい。もしそれに変わるものが欲しければ、小さめのものを新たに作る。何でもかんでも既存の建物を活用するだけではなく、ビルドの部分もある程度考えておかないと、いずれ無理が出てくるのではないか。あと、芋井地区の核がどこにあるのかがとても気にある。あるいは、住民たちはどこを核としたいのか。集中型で核が一つなのか、分散型で核がたくさんあるのか。その辺が見えなかったのが残念だった。

委員長 これは住民の言っている感覚や様子からの推測だが、(地区の核は)学校と支所である。

委員 その延長線上で言うと、既存の建物を壊して、そこに新たにコンパクトな支所と、保育園や小学校の隣接というような複合化を行って、利便性があがるものを作ればいいと思う。

委員長 今回のワークショップはそこまで細かい話にはならなかったということだ。今回のやり方については、プロのコンサルにファシリテーターをやっていただいたので、これはこれで一つのやり方だと思う。

この議論はこれで終わりではなく、またどこかで出てくると思うので、各自の意見を用意していただければと思う。

【閉 会】